

令和5年9月1日（金）

## 2 学期始業式 講話

みなさん、おはようございます。

今日は、ある事が起こって 100 年になるのですが、それは何か、分かりますか。報道等でも話題になっているので、知っている人も多いと思います。そう、関東大震災が発生して今日で、ちょうど 100 年になるのですね。1923 年 9 月 1 日 11 時 58 分、震度 7 を超える巨大地震により、多くの人命が失われました。自分たちの命を守るという意味で、しっかりと防災について考える機会にしてほしいと思います。

さて、夏休み、やはり、終わってみれば、あっという間でしたね。思ったより短かったこの夏休みの期間中、何か一つでもやり切ったという実感はありますか？どんな些細なことでもいいから、兎に角、やり切ったという経験は、充実感や自信に繋がって行きます。これからでもいいので、みなさんには、是非、何かをやり切る経験をしてもらいたいと思います。私は、この夏、少なくとも 4 冊は本を読もうと決めていました。そして、何とか読み切りました。私は本を読むことが好きなのですが、それは読書には 2 つの良い点があるからです。一つは、考える—思考できるという点。本を読んでいると、知らない間に、書かれていることについてあれやこれやと考えているものです。みなさんが苦手という「考える」ということが自然とできてしまうということです。そして、もう一つは、追体験できるという点。一人の人間が体験できる事柄は、高が知れています。本を読むと、そこには自分が体験したこともない内容や知らない事柄が記されています。それを読むことで、実体験ではないけれど、それに近いものを手にすることができます。そして、体験を積み重ねれば積み重ねるほど、そこから発せられる言葉には重みが付け加わり、内容も濃くなります。みなさんにも読書が好きになってもらいたいと強く願っています。

そこで、今日は、この夏に私が読んだ 2 冊の本を紹介します。

1 冊目は、『クスノキの番人』東野圭吾 さんの本です。東野さんと言えば、映画化された「沈黙のパレード」等、ガリレオシリーズで有名ですね。某 F 山雅治さんが演じる天才物理学者湯川博士の「う〜ん、実に面白い！」というセリフは記憶に残ります。ガリレオシリーズとは異なりますが、その木に祈れば、願いが叶うと言われているクスノキ、その番人を任された青年と、クスノキのもとへ祈念に訪れる人々の織りなす物語です。クスノキに念を預ける人と、その念を受け取る人の人間関係や思いの強さに「はっと」させられる物語でした。

2 冊目は、『52 ヘルツのクジラたち』町田そのこ さんの本です。52 ヘルツのクジラとは世界で一番孤独だと言われているクジラのことで、他のクジラ

とは声の周波数が違うため、いくら大声をあげていたとしても、他の大勢の仲間には届かない。世界で一頭だけというそのクジラの存在自体は確認されているものの、姿を見た人はいないと言われています。現在、社会問題にもなっている児童虐待、家庭内DV、トランスジェンダーなど、52ヘルツのクジラと姿が重なって感じられる様々な当事者が登場する物語。色々な人の声なき声を描いた小説。52ヘルツの声が聞こえなくても、じっと耳を澄まして、目を凝らしてみる。もしかしたらどこかで誰かが声をあげているかもしれないと想像を膨らませたくなるようなお話でした。

この2冊の本に共通することは、**思いを伝えようとするだけでなく、その思いをしっかりと受け止めようとする事の大切さ**だと強く感じました。この本が多くの人たちを魅了するのは、今、そのことが強く求められているのではないかと考えます。

**自分の言葉で、しっかりと自分の思いを伝え、他人の思いをしっかりと受け取ろうとする気持ちを、みなさんにも大切にしてもらいたいと思います。**

今日、紹介した本は2冊とも、本校の図書館にあります。興味を持った人は、是非、読んでみてください。

以上で終わります。

